

平成30年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473601076	事業の開始年月日	平成19年12月1日
		指定年月日	平成19年12月1日
法人名	株式会社アイシマ		
事業所名	グループホームゆとり		
所在地	( 245-0016 ) 横浜市泉区和泉町1295		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成30年12月20日	評価結果 市町村受理日	平成31年4月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームゆとりは、畑に囲まれ自然豊かな川近くの住宅街にあります。田畑の農作物や川沿いの遊歩道の草花を見て四季を感じる事ができ、川の鯉への餌やりも楽しみの一つです。町内会、近隣の方々は認知症高齢者に理解のある方が多く町内行事(芋煮会、BBQ会)などの交流も盛んです。ご利用者様には健康的に安心してお過ごしいただけるよう、法人として24時間体制訪問看護、内科、精神科との連携を密に行っており、状況に応じて提携病院への迅速な受診も対応しております。また、音楽療法士による音楽療法をホームで月1回行っており、アイシマが運営している中華レストラン「風の音」内で開催される音楽療法、食事会にも毎月参加しております。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	平成31年1月23日	評価機関 評価決定日	平成31年4月7日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市営地下鉄下飯田駅から徒歩7分で、桜の名所、水鳥の多い泉川に近く、雑木林も残る自然にあふれた環境です。周囲に高い建物はなく、木造2階建てで、1階2階は同じ間取りながら違った趣の、明るい内装でしつらえています。木製安全柵の広いベランダを備え、開放感のある雰囲気となっています。

<優れている点>

医療連携を土台にした運営であること、利用者には強制せずゆったりした時間を過ごしてもらうことを大切にしています。協力医は内科ばかりでなく、必要に応じて精神科、皮膚科も診察しています。介護職員は「医療連携ノート」を活用し、新たな症状を早期に捉えて受診に繋げるとい、きめ細やかな体制がとられています。また、ゆったりした時間に彩りを添える様々なイベント行事が実施されています。開所以来、隣接居住のオーナーの協力も得て町内行事に多く参加し、祭りや芋煮会、敬老会、バーベキュー、町内会避難訓練、町内清掃活動などで交流を深めています。法人の経営するレストランでは、毎月食事会や音楽療法の会も催されています。

<工夫点>

利用者、1人ひとりの趣味ややりたいこと、特技を把握し、それぞれが、日々の生活の中でできるように配慮しています。絵画や、刺し子などの刺繍、イラスト制作、縫物などで、作品はリビングや階段の壁面に展示して大切にしています。利用者の次への意欲につなげています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームゆとり
ユニット名	アリス

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「地域の中で共に成長しながら歩めるホーム」という理念の基、町内行事に参加したり、運営推進会議や、近隣住民連携避難訓練を通して、地域の方と接する機会を積極的に持ち、ホームに対する理解を深めていただいています。	法人理念、行動指針を事務所に掲示しています。ユニット会議で目標を振り返り、勉強会での学びを深めています。事業所内のイベントを共に行いながら反省と意見交換を行い、職員間の理念の共有に繋げています。地域の高齢者相談もよい機会となっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し町内行事（敬老会など）への参加や、回覧板を出す、隣の歯科への受診、散歩などで交流しています。行事の際は職員がボランティアという形でも参加しています。	町内会に加入し、敬老会、芋煮会、バーベキュー、清掃活動など日常的に利用者が参加しています。町内会の防災訓練や地区連合防災訓練にも積極的に参加し、交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	見学者の方には実際にホームを見ていただき、利用者様とお話する機会もあります。また、職員は認知症への理解について研修に参加し、支援方法をより深めています。認知症キャラバンメイトとして地域の方々、小学校で講座を行なっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催している運営推進会議では事業所で起きた事例を報告しています。特に防災に関する意識は皆様高く、近隣住民連携避難訓練では委員の方の呼びかけで多くの方に参加いただき、夜間想定で行い、地域の方の意見を基に改善を図っています。	2ヶ月に1度開催し、報告と意見交換を行っています。出てきた意見からサンマパーティーを開くことになり、現在の芋煮会に受け継がれています。行事の開催や避難訓練について特に熱心に話し合っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	保護課の担当ケースワーカーに利用者様の様子やサービス内容を伝え、情報交換をする事で、入居者様に最善のサービスが提供できるように取り組んでいます。特に身寄りのない利用者様の相談などを密に行っています。	生活に関する課題を相談するため区生活支援課のケースワーカーや高齢者担当者と頻りに連絡を取り合っています。受診や介護認定、オムツの給付に関する連絡は欠かせません。報告、相談を重ねています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルを基に、全スタッフが理解を深められるように研修を行っています。またチェックシートも活用しています。防犯上の観点から玄関は施錠していますが、ベランダ、テラスは開放しベンチを置いて、外気浴など自由に過ごせる工夫をしています。	「身体拘束等適正化委員会」を設置し職員にアンケートを実施しています。全職員が自己点検シートを用いてチェックを行い、ユニット会議で検討をしています。30年度は法令遵守の勉強会の中で、各自レポートを作成し、拘束なしの介護に向けた内容が深められています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人の勉強会で「法令遵守」、「身体拘束・虐待」の研修を行っています。また身体拘束委員が全職員にアンケートを取り法人全体として把握・防止に取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	ホームに成年後見制度に関するマニュアルがあり、自由に閲覧することが出来ます。実際、成年後見人を立てている利用者もいらっしゃり、協力して利用者の支援をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に必ずホーム見学と面談を行い、疑問や不安な点などを確認するようにしています。また、契約時にも法人の入居相談担当と共に重要事項など丁寧に説明をし、納得いただいた上で契約を行うよう確りとした体制が整っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会の際や電話、家族会などの機会に家族の意見を伺っています。苦情申し立て機関は、契約時の重要事項説明書に記載されている他、玄関にも掲示してあります。	毎月、家族に利用者の近況を「一行報告」で知らせています。折々に電話や郵便を通して確認しています。その際できるだけ要望に応えるよう努めています。面会時には相談や要望を聞く機会ととらえて、要望に応えるようにしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の申し送りやカンファレンス、ホーム会議等でスタッフの意見を汲み取り、管理者会議で提案したり、担当課長に相談・報告しています。	年2回職員面談を実施して要望を聞く機会を持っています。研修技術チェックシートを用いたキャリア形成システムを取り、定期的に職員の意向を聞く機会を持っています。職員それぞれのケア対応や課題を把握し、指導を行っています。	さまざまな体制の職員教育が行われています。経験を積んだ職員の力を結集するために更なる工夫も期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフの資格取得に向けた支援を行っています。また年2回人事考課を行っており、良いところを評価するなどスタッフのモチベーションに気をかけています。それぞれの得意分野を尊重し、協力、補い合える職場作りを図っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内に教育委員会を設置しており、個々の経験やレベルに合わせた研修会を実施しています。また社内勉強会も行っており、人材育成に努めています。ケアマネの受験対策講座やフォローアップの研修も行い働きながら資格取得を目指す意識を持ち易いです。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内で研修、勉強会や年1回の職員旅行、新年会など、他事業所スタッフと交流を図る機会を設けています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居相談の段階からニーズを伺い、サービス開始後は、本人・家族との話し合いをもとにモニタリングをし、介護支援計画を立案しています。また不安や要望があった時は、できる限り解決できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約時に家族の希望・要望を伺い、介護支援計画に挙げています。近況報告など日頃から連絡を密にとり、毎月の「一行日記」でも日々の様子を報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ほとんどの方が、まずは「新しい環境に慣れる」ということに重点を置き、身体的・精神的に安心できる環境づくりに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一人一人の得意な事を尊重し、テーブル拭き、お皿拭き、掃除、洗濯物干し・たたみ、カーテン開け閉めなど一緒に行います。昔からの風習、生活の知恵、草花の名前など、職員が教わる事も多くあり利用者同士でもお互いを尊重し合う関係ができています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時などに、些細なことでも家族に相談・報告し、双方で利用者を支えていける関係を築いています。また、受診の際にも報告し、身体状況を把握して頂きます。ホームの行事にもお誘いし、参加頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族との買物や外食、外泊を自由にしていただき、関係継続を支援しています。定期的に教会に出かけたり、お正月に帰られる方もいらっしゃいます。	美容院や理髪店、買い物（古書買取り店やコンビニエンスストア）など近隣への外出を支援しています。要望があった場合、すぐに対応できなくても、叶えるように調整しています。正月の帰宅や教会の会合への参加、家族との食事などの希望があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の相性を考え、食席を決めたり、スタッフが間に入り関係作りのフォローをすることもあります。一緒に生活する中で、利用者同士で助け合ったり、心配し合ったりする関係が築けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	今年実施していません。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	区の文化展に作品を見に行ったり、植物を買いに行く時間を作ったり、元気なうちに普通だった元町に行きたいと具体的に計画している方がいます。	居室の清掃、調理の手伝いや買い物も利用者の意思を尊重し、自発的に参加できるよう働きかけています。意思を伝えにくい人は表情やしぐさに注意を払い、皮膚疾患もおろそかにしないようにしています。気付いた様子は申し送りに記録し共有しています。	利用者の重度化が進んでいません。職員間の、情報共有をさらに進め、1人ひとりに対する理解が深まり、利用者支援につながっていくことも期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に得た情報のほか、日々の会話の中からそれまでの暮らし・習慣・仕事などの情報を集め、記録に残してスタッフ間で共有し、サービスに繋げられるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	現在出来ること、出来なくなってきたことなど、些細な変化も見逃さないよう努めています。それをスタッフで共有、カンファレンスで話し合い、今後のサービスに活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の希望を伺い、スタッフ間でもカンファレンスで意見を出し合い検討します。また、主治医や訪問看護師、訪問リハビリスタッフにも相談し、サービスに役立てています。利用者に変化があった場合は、早急に介護支援計画の変更を行っています。	個人記録、業務日誌への記入は外部、日勤、夜勤で色分けし、工夫しています。申し送りノートも記入と確認で、ケアを進め、内容を介護計画に反映させています。医療連携ノートやカンファレンス、口腔ケアの助言書で総合的に対応しています。急変にも対応しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録は、第三者が読んでもわかりやすいように、具体的に書くように心がけています。カンファレンスでは、利用者一人一人について振り返り、意見を出し合い、介護支援計画に生かせるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者の身体状況に合わせて対応しています。ホームでの入浴が困難な場合に訪問入浴を導入したり、外出支援や受診対応、内科、精神科、皮膚科、歯科往診、リハビリなど受けられる体制も整えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	利用者全員が町内会に加入し、敬老会、防災訓練に参加したり、回覧板を回したり、運営推進会議の際に交流したり、利用者一人一人がそれぞれの形で地域の中で生活しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科・精神科・皮膚科・歯科の往診医、訪問看護師とは「医療連携ノート」を使い、本人、家族の希望や相談事も共有できるようになっています。当ホームの隣にある歯科医院も認知症高齢者に理解があり、柔軟に対応してくれます。	協力医療機関の訪問診療は内科、精神科、皮膚科が月2回、歯科が月1回あります。週1回看護師が来所しています。これまでのかかりつけ医を受診する利用者もいます。年複数回の定期健康診断の他、訪問マッサージを利用することもできます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	「医療連携ノート」を使い、スタッフ・看護師・医師が相互に情報を共有できるようになっています。また、看護師とは24時間電話連絡が取れる体制が整っており、夜間の急変時などでも相談・指示を受けることができます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族がいない場合や遠方の場合、管理者が窓口となり、病院や役所のケースワーカーと連絡を取り合い、医師・看護師との連絡調整を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に家族にはターミナルケアが可能という説明をしています。重度化した場合は家族、主治医、訪問看護、スタッフが連携して対応しています。	入居時に「重度化における対応に係る指針」に基づき、緊急時の対応などについて説明し、同意を得ています。ターミナルケアに移行する際は、医師を交えた家族との面談を実施しています。看取りに関する研修を実施し、職員の精神面でのケアを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時の対応方法や連絡方法を事務所に掲示しています。また、消防署や、町内会の訓練に参加し緊急時の対処法（心肺蘇生法、AED）について実践的な講習を積んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署立ち会いで近隣住民連携夜間想定避難訓練を年2回行っており、町内会の方にも協力いただいています。また緊急時の地域連絡網も作っています。災害時の食品や物品の備蓄も備え管理しています。	災害対応マニュアルは、職員がいつでも閲覧できるようにしています。災害備蓄品はリスト化して管理し、定期的に更新しています。夜間想定消防訓練を町内会と連携して実施し、消防職員からAEDなどの使い方について指導を受けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報、事務所の鍵のかかるロッカーに保管しています。不適切と思われる声かけなどあった場合は、その都度検討するようにしています。また、法人内でも倫理と接遇の研修があります。	利用者に敬意を払って接することができるよう「言葉遣いチェック表」を作成し、年1回の接遇研修で、振り返りと確認を行っています。個人情報の書類はロッカーに施錠して保管し、パソコンデータはパスワードの設定やウィルス対策をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	レクへの参加や、おやつの際の飲み物など、自己決定できるような声かけの仕方を心がけています。余暇の過ごし方もやりたい事ができるよう環境を整えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	天候や体調、その日の気分によってどう過ごすか決めて頂いています。余暇の過ごし方も、無理強いせず、居室で読書・音楽鑑賞・園芸をしたり、リビングでテレビを観たり、縫い物をしたり、お話しをしたり、それぞれに過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴日以外でも衣類の汚れてしまった際は、その都度着替えて頂いています。その際スタッフと共に衣類を選びワンパターンにならないよう配慮をしています。訪問理美容にヘアカットを頼む際も希望の髪型を伝えられています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	気の合う利用者同士で可能な限り同じテーブルで食事やおやつを召し上がって頂いています。手拭きタオルの用意や、テーブル拭きを手伝って頂く事もあります。食べ物から昔話や思い出話が盛り上がる事もあります。	利用者からの要望を献立に取り入れています。自家菜園で利用者と一緒に収穫した野菜を調理し食事を楽しむ工夫もしています。歯科医師の訪問診療で嚥下のテストを受けることもできます。法人が経営するレストランで月1回、外食を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の食事・水分量がチェック表で把握出来るようになっていきます。嚥下や消化状態など個々に応じ、ミキサー、キザミ、トロミなど食事形態を変えて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアは習慣で行っています。一人一人の状況に合わせて、声かけや部分的な介助をしながら行っています。隣の歯科医院や往診の歯科医に口腔内のチェックや口腔ケアの際のアドバイスなどお願いすることも出来ます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェックシートを使い個々の排泄パターンを把握し、なるべく失禁が少なくなるようトイレ誘導支援を行っています。	利用者がトイレを利用する際は、「排泄チェックシート」を用いて、排泄の状況を確認し記録しています。変化がある場合は、訪問看護師や協力医に報告し、助言を得ながら支援に活かし、経過を家族に報告しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	散歩や体操を日課にし、水分、乳製品を積極的に取り入れる工夫、トイレに座る習慣、医師・看護師と連携し、薬でコントロールする方法など、多方面からアプローチしています。また、便秘が及ぼす精神的な悪影響についても、スタッフの理解を深めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	現在は週2回のペースで入浴され、体調により入浴出来なかった際や希望時は柔軟に対応しています。ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を入れるなど、リラックスできる工夫もしています。介護度が重くなった方は訪問入浴を利用されています。	入浴は週2回午前中に行っています。日曜日を予備日とし、利用者の体調に応じて入浴日を調整しています。異性対応により羞恥心から入浴を拒むことがないように、利用者の意向を尊重しています。入浴中は声かけをして、会話が弾むよう心がけています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	テレビを観ながら就寝など、個々の理想や習慣を優先に支援しています。また寝不足、不調などでも日中で休息をとっていただいています。天気の良い日に布団を干したり、季節に応じて寝具を替えたり安眠できるよう環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイルに内服薬一覧があり、お薬手帳で服薬内容の変化や効果、副作用など、一目で分かるようにしています。薬の変更等があった時は、副作用等の注意点も含め、業務日誌に書きスタッフに周知しています。医療連携ノートで看護師とも共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	モップがけ、新聞折り、掃除、洗濯物たたみ、リネン類の交換など、出来る事を無理のない範囲で手伝って頂いています。趣味の時間を大切にされ、縫い物、読書、塗り絵、パズル、朝・夕刊を読んだり、漢字ドリル等を楽しまれる方もいます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日には外気浴や散歩に行っており、歩行状態に合わせて散歩コースが選べます。また、家族と外食や買物に行ったり、定期的に教会に行く機会もあります。	職員は家族との外出や買い物の付き添いなど利用者の希望に沿って支援しています。散歩は複数のコースを設け、利用者の要望があれば随時対応しています。月ごとに初詣、豆まき、花見、ジャガイモ掘りなどのイベントを開催し、外出を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族と買い物・食事に行ったり、散歩途中の自動販売機でジュースを買ったり、近くのコンビニで買物をする機会があります。本人の希望を伺い買物代行することもあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話はいつでも使えるようになっていきます。誕生日や敬老の日にプレゼントが届いた際、お礼をしたり、家族との年賀状のやりとりも楽しみにされており、家族宛ての年賀状は本人に一言書いていただいています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	換気や空調の管理はこまめに行っています。リビングには加湿・空気清浄機を設置し、必要であれば各居室にも温湿度計を設置しています。共用空間には、クリスマスツリーや七夕飾りなど飾り付け、季節感を出しています。利用者の描いた絵や刺繍作品、行事写真の展示もしています。	共用空間は、明るく清潔に保たれ、床暖房設備があり、室温、湿度をきめ細かく調節しています。行事写真などの掲示物は季節感も工夫し、絵画、ぬり絵、刺し子など利用者の作品を数多く展示しています。利用者に居心地よい空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルを囲んで話をしながらおやつ・食事をしたり、リビングのソファでテレビを観たり、皆で音楽を聴いたりする場所があります。ベランダに一人ぶらりと出て、外気浴をする方もいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族との写真や自分で描いた絵を飾ったり、馴染みの家具を置いたりされています。本棚や飾り棚、テレビなどを置き、居室での時間を大切にされている方もいます。中庭とベランダに温室を置き、園芸を楽しまれる方もいます。	エアコンが設置されています。入居時に利用者や家族の意向を確認し、馴染みの家具、ベッドなどは希望に沿った配置にしています。背の高い家具類には転倒防止対策をしています。ベランダに椅子とテーブルを置き、寛いで過ごせるよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	開放感のあるベランダにはベンチが置かれ、のんびりしたり一緒に洗濯物を干したり出来ます。当ホームは全面バリアフリーで手すりやコールボタンも各所に設置されています。また庭には畑があり、収穫を楽しむことが出来ます。		

事業所名	グループホームゆとり
ユニット名	ベル

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「地域の中で共に成長しながら歩めるホーム」という理念の基、町内行事に参加したり、運営推進会議や、近隣住民連携避難訓練を通して、地域の方と接する機会を積極的に持ち、ホームに対する理解を深めていただいています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し町内行事（敬老会など）への参加や、回覧板を出す、隣の歯科への受診、散歩などで交流しています。行事の際は職員がボランティアという形でも参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	見学者の方には実際にホームを見ていただき、利用者様とお話する機会もあります。また、職員は認知症への理解について研修に参加し、支援方法をより深めています。認知症キャラバンメイトとして地域の方々、小学校で講座を行なっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催している運営推進会議では事業所で起きた事例を報告しています。特に防災に関する意識は皆様高く、近隣住民連携避難訓練では委員の方の呼びかけで多くの方に参加いただき、夜間想定で行い、地域の方の意見を基に改善を図っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	保護課の担当ケースワーカーに利用者様の様子やサービス内容を伝え、情報交換をする事で、入居者様に最善のサービスが提供できるように取り組んでいます。特に身寄りのない利用者様の相談などを密に行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルを基に、全スタッフが理解を深められるように研修を行っています。またチェックシートも活用しています。防犯上の観点から玄関は施錠していますが、ベランダ、テラスは開放しベンチを置いて、外気浴など自由に過ごせる工夫をしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人の勉強会で「法令遵守」、「身体拘束・虐待」の研修を行っています。また身体拘束委員が全職員にアンケートを取り法人全体として把握・防止に取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	ホームに成年後見制度に関するマニュアルがあり、自由に閲覧することが出来ます。実際、成年後見人を立てている利用者もいらっしゃり、協力して利用者の支援をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に必ずホーム見学と面談を行い、疑問や不安な点などを確認するようにしています。また、契約時にも法人の入居相談担当と共に重要事項など丁寧に説明をし、納得いただいた上で契約を行うよう確りとした体制が整っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会の際や電話、家族会などの機会に家族の意見を伺っています。苦情申し立て機関は、契約時の重要事項説明書に記載されている他、玄関にも掲示してあります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の申し送りやカンファレンス、ホーム会議等でスタッフの意見を汲み取り、管理者会議で提案したり、担当課長に相談・報告しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフの資格取得に向けた支援を行っています。また年2回人事考課を行っており、良いところを評価するなどスタッフのモチベーションに気をかけています。それぞれの得意分野を尊重し、協力、補い合える職場作りを図っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内に教育委員会を設置しており、個々の経験やレベルに合わせた研修会を実施しています。また社内勉強会も行っており、人材育成に努めています。ケアマネの受験対策講座やフォローアップの研修も行い働きながら資格取得を目指す意識を持ちやすいです。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内で研修、勉強会や年1回の職員旅行、新年会など、他事業所スタッフと交流を図る機会を設けています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居相談の段階からニーズを伺い、サービス開始後は、本人・家族との話し合いをもとにモニタリングをし、介護支援計画を立案しています。また不安や要望があった時は、できる限り解決できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約時に家族の希望・要望を伺い、介護支援計画に挙げています。近況報告など日頃から連絡を密にとり、毎月の「一行日記」でも日々の様子を報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ほとんどの方が、まずは「新しい環境に慣れる」ということに重点を置き、身体的・精神的に安心できる環境づくりに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一人一人の得意な事を尊重し、テーブル拭き、お皿拭き、掃除、洗濯物干し・たたみ、カーテン開け閉めなど一緒に行います。昔からの風習、生活の知恵、草花の名前など、職員が教わる事も多くあり利用者同士でもお互いを尊重し合う関係ができています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時などに、些細なことでも家族に相談・報告し、双方で利用者を支えていける関係を築いています。また、受診の際にも報告し、身体状況を把握して頂きます。ホームの行事にもお誘いし、参加頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族との買物や外食、外泊を自由にしていただき、関係継続を支援しています。定期的に教会に出かけたり、お正月に帰られる方もいらっしゃいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の相性を考え、食席を決めたり、スタッフが間に入り関係作りのフォローをすることもあります。一緒に生活する中で、利用者同士で助け合ったり、心配し合ったりする関係が築けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	今年実施していません。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	区の文化展に作品を見に行ったり、植物を買いに行く時間を作ったり、元気なうちに普通った元町に行きたいと具体的に計画している方がいます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に得た情報のほか、日々の会話の中からそれまでの暮らし・習慣・仕事などの情報を集め、記録に残してスタッフ間で共有し、サービスに繋がられるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	現在出来ること、出来なくなってきたことなど、些細な変化も見逃さないよう努めています。それをスタッフで共有、カンファレンスで話し合い、今後のサービスに活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の希望を伺い、スタッフ間でもカンファレンスで意見を出し合い検討します。また、主治医や訪問看護師、訪問リハビリスタッフにも相談し、サービスに役立てています。利用者に変化があった場合は、早急に介護支援計画の変更を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録は、第三者が読んでもわかりやすいように、具体的に書くように心がけています。カンファレンスでは、利用者一人一人について振り返り、意見を出し合い、介護支援計画に生かせるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者の身体状況に合わせて対応しています。ホームでの入浴が困難な場合に訪問入浴を導入したり、外出支援や受診対応、内科、精神科、皮膚科、歯科往診、リハビリなど受けられる体制も整えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	利用者全員が町内会に加入し、敬老会、防災訓練に参加したり、回覧板を回したり、運営推進会議の際に交流したり、利用者一人一人がそれぞれの形で地域の中で生活しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科・精神科・皮膚科・歯科の往診医、訪問看護師とは「医療連携ノート」を使い、本人、家族の希望や相談事も共有できるようになっています。当ホームの隣にある歯科医院も認知症高齢者に理解があり、柔軟に対応してくれます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	「医療連携ノート」を使い、スタッフ・看護師・医師が相互に情報を共有できるようになっています。また、看護師とは24時間電話連絡が取れる体制が整っており、夜間の急変時などでも相談・指示を受けることができます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族がいない場合や遠方の場合、管理者が窓口となり、病院や役所のケースワーカーと連絡を取り合い、医師・看護師との連絡調整を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に家族にはターミナルケアが可能という説明をしています。重度化した場合は家族、主治医、訪問看護、スタッフが連携して対応しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時の対応方法や連絡方法を事務所に掲示しています。また、消防署や、町内会の訓練に参加し緊急時の対処法（心肺蘇生法、AED）について実践的な講習を積んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署立ち会いで近隣住民連携夜間想定避難訓練を年2回行っており、町内会の方にも協力していただいています。また緊急時の地域連絡網も作っています。災害時の食品や物品の備蓄も備え管理しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報、事務所の鍵のかかるロッカーに保管しています。不適切と思われる声かけなどあった場合は、その都度検討するようにしています。また、法人内でも倫理と接遇の研修があります。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	レクへの参加や、おやつの際の飲み物など、自己決定できるような声かけの仕方を心がけています。余暇の過ごし方もやりたい事ができるよう環境を整えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	天候や体調、その日の気分によってどう過ごすか決めて頂いています。余暇の過ごし方も、無理強いせず、居室で読書・音楽鑑賞・園芸をしたり、リビングでテレビを観たり、縫い物をしたり、お話しをしたり、それぞれに過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴日以外でも衣類の汚れてしまった際は、その都度着替えて頂いています。その際スタッフと共に衣類を選びワンパターンにならないよう配慮をしています。訪問理美容にヘアカットを頼む際も希望の髪型を伝えられています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	気の合う利用者同士で可能な限り同じテーブルで食事やおやつを召し上がって頂いています。手拭きタオルの用意や、テーブル拭きを手伝って頂く事もあります。食べ物から昔話や思い出話が盛り上がる事もあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の食事・水分量がチェック表で把握出来るようになっていきます。嚥下や消化状態など個々に応じ、ミキサー、キザミ、トロミなど食事形態を変えて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアは習慣で行っています。一人一人の状況に合わせて、声かけや部分的な介助をしながら行っています。隣の歯科医院や往診の歯科医に口腔内のチェックや口腔ケアの際のアドバイスをなどお願いすることも出来ます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェックシートを使い個々の排泄パターンを把握し、なるべく失禁が少なくなるようトイレ誘導支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	散歩や体操を日課にし、水分、乳製品を積極的に取り入れる工夫、トイレに座る習慣、医師・看護師と連携し、薬でコントロールする方法など、多方面からアプローチしています。また、便秘が及ぼす精神的な悪影響についても、スタッフの理解を深めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	現在は週2回のペースで入浴され、体調により入浴出来なかった際や希望時は柔軟に対応しています。ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を入れるなど、リラックスできる工夫もしています。介護度が重くなった方は訪問入浴を利用されています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	テレビを観ながら就寝など、個々の理想や習慣を優先に支援しています。また寝不足、不調などでも日中で休息をとっていただいています。天気の良い日に布団を干したり、季節に応じて寝具を替えたり安眠できるよう環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイルに内服薬一覧があり、お薬手帳で服薬内容の変化や効果、副作用など、一目で分かるようにしています。薬の変更等があった時は、副作用等の注意点も含め、業務日誌に書きスタッフに周知しています。医療連携ノートで看護師とも共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	モップがけ、新聞折り、掃除、洗濯物たたみ、リネン類の交換など、出来る事を無理のない範囲で手伝って頂いています。趣味の時間を大切にされ、縫い物、読書、塗り絵、パズル、朝・夕刊を読んだり、漢字ドリル等を楽しまれる方もいます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日には外気浴や散歩に行っており、歩行状態に合わせて散歩コースが選べます。また、家族と外食や買物に行ったり、定期的に教会に行く機会もあります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族と買い物・食事に行ったり、散歩途中の自動販売機でジュースを買ったり、近くのコンビニで買物をする機会があります。本人の希望を伺い買物代行することもあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話はいつでも使えるようになっていきます。誕生日や敬老の日にプレゼントが届いた際、お礼をしたり、家族との年賀状のやりとりも楽しみにされており、家族宛ての年賀状は本人に一言書いていただいています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	換気や空調の管理はこまめに行っています。リビングには加湿・空気清浄機を設置し、必要であれば各居室にも温湿度計を設置しています。共用空間には、クリスマスツリーや七夕飾りなど飾り付け、季節感を出しています。利用者の描いた絵や刺繍作品、行事写真の展示もしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルを囲んで話をしながらおやつ・食事をしたり、リビングのソファでテレビを観たり、皆で音楽を聴いたりする場所があります。ベランダに一人ぶらりと出て、外気浴をする方もいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族との写真や自分で描いた絵を飾ったり、馴染みの家具を置いたりされています。本棚や飾り棚、テレビなどを置き、居室での時間を大切にされている方もいます。中庭とベランダに温室を置き、園芸を楽しまれる方もいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	開放感のあるベランダにはベンチが置かれ、のんびりしたり一緒に洗濯物を干したり出来ます。当ホームは全面バリアフリーで手すりやコールボタンも各所に設置されています。また庭には畑があり、収穫を楽しむことが出来ます。		

平成30年度

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム ゆとり

作成日： 平成31年 4月 9日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	利用者の重度化が進んでいます。職員間の、情報共有をさらに進め、1人ひとりに対する理解が深まり、利用者支援につながっていくよう求められる。	職員間の情報共有・対応統一を確立する	業務やご利用者様の情報などを各ユニット職員が日々把握するための報告、連絡、相談、確認をよりスムーズに行えるように工夫する。（例えば簡易的な申し送りメモなどを活用するなど）	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月